

第 30 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会報告

緩和ケアセンター事務局

令和 5 年 12 月 14 日(木)に、第 30 回 宇部・小野田圏域緩和ケア事例検討会が山口大学医学部附属病院オーデトリウムにて開催されました。切れ目のない緩和ケアを実現するために、事例検討を通じて顔の見える緩和ケア連携体制の構築及び連携強化を図ることを目的とし、院内外の医師、看護師、薬剤師、MSW、ケアマネジャー、訪問看護師など参加され合計 78 名の参加者となりました。

当院の緩和ケアセンター乗安看護師長から開会の挨拶があり、各演者より以下の事例提示があった後、質疑応答を行いました。

事例:「患児の思いを尊重しながら地域と協力し自宅や学校生活を送れた例」

生協小野田診療所 医師 山本 優里 先生
山口大学医学部附属病院 A棟 8 階 看護師 永富 明日香 先生
山口大学医学部附属病院 患者支援センター 看護師 梶間谷 百恵 先生

参加者の方から以下の通り、たくさんのご意見が寄せられ有意義な検討会となりました。

- ・「子供の意思決定支援を尊重したとてもよい関りで感激しました。このような支援が広まればと思います。」
- ・「様々な職種の方のお話が聞け、視野を広げる機会となりました。」
- ・「多職種、地域、医療者以外の関係者で 1 人 1 人を支えて大切に暮らしを調整していくことを学びました。」

この度は、様々な職種の方々に検討会にご参加して頂き、誠にありがとうございました。本検討会は、今後も継続して行う予定ですので皆様のご参加を心よりお待ちしております。

今後ともご理解、ご協力よろしくお願い申し上げます。

「検討会風景」

